

第五十三條 軌條支材ニハ努メテ割止ヲ施スヘシ

第五十四條 軌條支材ニ弛緩ヲ生シタル場合ニハ其ノ末端ニバツキングヲ使用シテ之ヲ緊締スヘシ

第五十五條 第五十二條ニ依リ軌條支材ヲ取付ケタル場合ト雖モ尙軌間擴大防止上必要アリト認ムル場合ニハ適當ナル間隔ニゲージタイヲ取付クルコトヲ得

第四章 分岐器

第五十六條 分岐器ヲ敷設スルトキハ左ノ各號ニ依ルヘシ

- 一 豫メ各部ヲ検査シ不具合ノ虞アルモノハ之ヲ修正シ必要ニ應シテ修理ヲ加フルコト
- 二 高速度列車ノ運轉スル線路ニ交叉亘線、亘線付交叉等ヲ敷設スル場合ニハ該列車カ分岐線ヲ通過セサル配線ト爲スコト
- 三 普通ノ分岐器ヲ使用スル場合ニ於テモ成ル可ク該列車カ分岐線ヲ通過セサル様配線ヲ選フコト
- 四 分岐器ヲ相對シテ敷設スル場合分岐曲線ノ半徑百十米ヨリ小ナルトキハ兩轉轍器趾端ノ間ニ相當ノ間隔ヲ存セシムルコト
- 五 高速度列車ノ運轉スル本線路ニ於テ分岐器ヲ相對シテ敷設スル場合該列車カ分岐曲線ヲ通過スル配線ニ在リテハ兩轉轍器趾端ノ間ニハ十米以上ノ間隔ヲ存セシムルコト
- 六 分岐器ニ於ケル各部分ハ勿論其ノ前後九米以上ハ成ル可ク同一種類ノ軌條ヲ使用スルコト
- 七 分岐器ヲ假設スル場合ニハ本線軌條ハ成ル可ク之ヲ切斷セス別ニ相當長ノ軌條ヲ使用シテ接續スルコト

第五十七條 甲線又ハ重要ナル乙線ニ於テ分岐線カ主要本線ナル場合ニハ分岐曲線ノ半徑ハ二百四十米以上タルコトヲ要ス

上タルコトヲ要ス

特ニ速度大ナル列車ヲ運轉スル線路ニ於テ該列車カ分岐線ヲ通過スル場合ニハ成ル可ク轍又角ノ小ナル分岐ト爲シ轍又ハ必要ニ應シテ可動式ト爲スヘシ

第五十八條 分岐曲線ニ於ケルストラツクハ別ニ定ムル分岐定規ニ依リテ之ヲ附スヘシ

曲線ヨリ分岐スル場合ニハ分岐曲線ノ半徑ニ相當スルストラツクヲ前項ニ準シテ施スヘシ但シ十九耗ヲ超ユルコトヲ得ス

第五十九條 可動轍又使用分岐器ニ於ケル分岐曲線竝ニ一般分岐外曲線ニ於ケルストラツク及其ノ遞減ハ一般曲線ノ場合ニ準據スヘシ

第六十條 高速度列車ヲ運轉スル本線路ニ於ケル分岐附帶ノ曲線ニハ已ムコトヲ得サル場合ヲ除クノ外左ノ各號ニ依リテカントヲ附スヘシ

- 一 曲線内方ヘ分岐スル分岐器ニ於ケル分岐曲線ニハ主要ナル本線路ノ曲線ニ相當スルカントヲ附スルコト
  - 二 前號以外ノ分岐器ニ於ケル分岐曲線ニハ轉轍器及轍又部トノ接續關係ヲ考慮シテ適當ナルカントヲ附スルコト
  - 三 分岐外曲線ニ於ケルカントハ一般曲線ノ場合ニ準シテ之ヲ附スルコト
  - 四 前各號ニ於ケルカントノ遞減距離ハカントノ三百倍以上タルコト
  - 五 分岐曲線ト之ニ接續スル曲線カ相反向スル場合ニハカントノ遞減點間直線長ハ五米以上タルコト
- 高速度列車ヲ運轉セサル本線路ニ於テ分岐附帶ノ曲線ニカントヲ附スル場合ハ前項各號ニ準ス

第六十一條 分岐器ニハ左ノ各號ニ依ル施設ヲ爲スヘシ

一 重要ナル轉轍器ニハ趾端外方三百耗附近ニゲージタイヲ取付ケ轍又ニハ必要ニ應シテゲージストラットヲ取付クルコト

二 分岐曲線ニハ枕木一挺隔テニ軌條支材ヲ内外軌條ノ外側ニ取付クルコト但シタイプレート使用ノ場合ニハ之ヲ省略シ又車輛ノ通過頻繁ナラサル分岐器ニハ其ノ數ヲ相當減少スルコトヲ得

三 分岐外曲線ニハ必要ニ應シテ軌條支材ヲ兩側軌條ニ取付クルコト

四 高速度列車カ分岐曲線ヲ通過スル分岐器ニハタイプレートヲ敷設スルコト

五 重要ナル對向轉轍器ニシテ趾端磨耗著シキモノ又ハ曲線ヨリ分岐スル本線路ノ轉轍器ニハ適當ナル護輪器ヲ施設スルコト

第六十二條 轉轍器ノ尖端軌條ハ常ニ基本軌條ニ密着スル様又可動轍又ノ可動軌條ト接續軌條トハ喰違ナキ様保守スヘシ常時鎖錠シアル轉轍器又ハ可動轍又ト雖モ時々轉換シテ其ノ密着又ハ接續ノ状態ヲ檢スヘシ

第六十三條 分岐器ニ於ケル軌間、水準、高低及通り等ノ保守ニ關シテハ左ノ各號ニ依ルノ外一般軌道ノ場合ニ準據スヘシ

- 一 轍又部ニ於ケル軌間ノ狂ハ左ノ限度内ニ於テハ之ヲ整正セサルコトヲ得  
增 五 耗 減 三 耗
- 二 轍又部鼻端軌條ト護輪器（輪緣路側）トノ間隔ハ千二十耗乃至千三十二耗ノ範圍内ニ於テハ之ヲ整正セサルコトヲ得可動轍又使用ノ場合亦之ニ準ス

第五章 脱線防止軌條、橋上護輪軌條及磨耗防止軌條

第六十四條 本線路ニ於ケル左ノ半徑ヨリ小ナル曲線又ハ特ニ必要ト認ムル曲線ニハ軌條ノ内側ニ當該曲線ノスラツクニ六十五耗ヲ加ヘタル間隔ヲ以テ脱線防止軌條ヲ敷設シ其ノ兩端ハ一米五以上ノ長サニ於テ之ヲ漏斗形ニ彎曲シ終端ニ於テ少クトモ百八十耗ノ間隔ヲ保タシムヘシ

- 甲 線 三百米
- 乙 線 二百五十米
- 丙 線 二百米

脱線防止軌條ニハ已ムコトヲ得サル場合ヲ除クノ外其ノ接目ニ接目鉸ヲ使用シボルトナットハ成ル可ク輪緣路外側ニ於テ之ヲ締結スヘシ

第六十五條 本線路ニ於ケル延長三十米以上ノ橋梁又ハ特ニ必要ト認ムル橋梁ニハ附屬圖表第四號ニ依リ其ノ全長ニ亘リテ護輪軌條ヲ敷設スヘシ

護輪軌條ニハ其ノ接目ニ接目鉸ヲ使用シボルトナットハ成ル可ク輪緣路外側ニ於テ之ヲ締結スヘシ  
護輪軌條ヲ枕木ニ据付クル場合ニハ犬釘ヲ枕木一挺隔テニ打込ムモ妨ケナシ但シ護輪軌條ヲ枕木繫材ニ兼用セシムル場合ニハ犬釘ヲ各枕木毎ニ打込ムコトヲ要ス

第六十六條 軌條ノ磨耗著シキ曲線ニハ磨耗防止軌條ヲ敷設スルコトヲ得  
磨耗防止軌條ハ曲線内軌ノ内側ニ當該曲線ノスラツクニ三十八耗ヲ加ヘタル間隔ヲ以テ之ヲ敷設シ兩端ハ二米以上ノ長サニ於テ漏斗形ニ彎曲シ終端ニ於テ少クトモ百八十耗ノ間隔ヲ保タシムヘシ  
磨耗防止軌條ニハ其ノ接目ニ必ス接目鉸ヲ使用シボルトナットハ成ル可ク輪緣路内側ニ於テ之ヲ締結

第六章 枕 木

第六十七條 枕木ノ材種、仕様、寸法及其ノ配置員數ニ關シテハ別ニ定ムル所ニ依ルヘシ但シ路盤軟弱ニシテ保守困難ナル箇所ニ於テハ其ノ配置員數ヲ増加スルコトヲ得

第六十八條 枕木ノ軌條ニ對スル配置ハ附屬圖表第五號ニ依リ特別ノ場合ヲ除クノ外枕木ノ中心ヲ努メテ軌道ノ中心ト一致セシメ且軌道ノ中心線ニ直角ナラシムルヘシ

第六十九條 橋臺前後ニ於ケル枕木ノ配置ハ附屬圖表第六號ニ依ルヘシ  
斜角橋梁ノ場合モ特別ノ構造ヲ施シ直角ニ之ヲ敷設スヘシ

第七十條 枕木ノ間隔擴大シ又ハ軌道中心線ニ對スル直角ノ狂ヲ生シタルトキハ之カ整正ヲ爲スヘシ但シ左ノ限度内ニ於テハ之ヲ整正セサルコトヲ得

一本線路

枕木間隔ノ擴大(軌道内軌條底位置ニ於テ)

軌道中心線ニ對スル直角ノ狂(同上)

甲線	四十耗	三十耗
乙線	五十耗	四十耗
丙線	六十耗	五十耗

二 側線ハ前號丙線ニ準ス

第七十一條 枕木ノ配置ニ付テハ軌條ノ腹部ニ其ノ位置ヲ示ス目標ヲ附シテ監視其ノ他ニ便ナラシムヘシ  
第七十二條 枕木ノ敷設ニ當リテハ左ノ各號ニ依ルヘシ

一 枕木ノ軌條ト接觸スル部分ニ凸凹アルモノハ之ヲ平坦ニ削均スルコト

二 割裂ノ虞アル枕木ニハ使用ニ先チテ適當ナル制止ヲ施スコト

三 枕木ハ中身ヲ下向トシ丸味アルモノハ幅廣キ方ヲ下敷ト爲スコト

第七十三條 橋枕木ノ使用ニ際シテハ其ノ厚サヲ軌條面ニ不整ヲ及ホササル様仕上クヘシ

第七十四條 橋枕木ハ附屬圖表第四號ニ依リ一挺ニ付**フツクポール**ト二本ヲ以テ之ヲ橋桁ニ取付クヘシ

振動ノ爲回轉ノ虞アル**フツクポール**トニハ其ノ頭部ニ鈎ノ方向ヲ表示スル記號ヲ附シ之カ鑑識ニ便ナラシムヘシ

第七十五條 橋桁ノ頂面ニ鋌頭アル場合又ハ**カント**ヲ附スル場合ハ枕木ト桁トノ間ニ成ル可ク**バツキング**ヲ挿入スヘシ

**バツキング**ハ檜、楮等ノ良質ナル素材ヲ用ヒ其ノ厚サハ特別ノ場合ヲ除クノ外三十耗以上トシ枕木ニ釘付ト爲シ其ノ他附屬圖表第四號ニ依リテ施行スヘシ

**カント**其ノ他ノ爲必要アル場合ニハ枕木ニ二十耗以内ノ切缺ヲ附スルコトヲ得

第七十六條 軌條接目箇所竝ニ軌條支材又ハ**アンチクリーパー**使用箇所ニ敷設スル枕木ハ成ル可ク優良品ヲ撰ヒテ使用スヘシ

第七十七條 重要ナル本線路及更換作業困難ナル箇所ニ敷設スル枕木ハ良質ナル素材枕木又ハ施藥枕木ヲ使用スヘシ

第七十八條 施藥枕木ニ加工シタル場合ニハ其ノ部分ニ防腐劑ヲ塗布スヘシ

第七十九條 軌條ノ喰込其ノ底部厚以上ニ達シタル場合ニハ其ノ部分ノ枕木表面ヲ削均スヘシ

第八十條 犬釘ヲ拔取ルトキハ枕木ヲ毀損セサル様注意シ孔跡ニハ堅質ノ込栓ヲ打込ムヘシ犬釘ヲ舊孔ニ打替フル場合亦同シ

枕木ニ使用スル込栓ハ必ス防腐劑ニ浸シタルモノヲ使用スヘシ

第八十一條 軌條接目ノ位置ヲ移動シタル場合ニハ接目附近ノ枕木ハ即時位置ヲ整正シ他ハ引續キ之ヲ施行スヘシ

第八十二條 枕木ノ更換ハ全般ニ亘リテ之ヲ考慮シ成ル可ク局部ニ偏セシムヘカラス

第八十三條 本線路及重要ナル側線ニ於ケル枕木ノ更換ハ特別ノ場合ヲ除クノ外同時ニ二挺以上連續シテ之ヲ爲スヘカラス

第八十四條 新枕木ヲ堆積スルニハ排水良好ナル場所ヲ撰ヒ成ル可ク下敷ニ古枕木ヲ利用シ左ノ各號ニ依リテ積重ネ一山毎ニ其ノ種類、員數、寸法及點檢月日等ヲ掲記シタル標札ヲ附シ亡失及火災ノ防備ヲ爲シ置クヘシ

一 素材枕木ハ水切及風通ヲ良好ナラシメ頂面ニハ屋根形ノ勾配ヲ附シテ雨水ノ滲透ヲ防クコト

二 施業枕木ハ成ル可ク之ヲ密接セシメ土砂其ノ他ニテ覆ヒ急激ナル乾燥ヲ避クルコト

第八十五條 枕木ノ取扱ニハ鳶口又ハ鶴嘴ヲ使用スヘカラス但シ已ムコトヲ得サル場合ニハ枕木ノ兩側面又ハ末端ニ於テ之ヲ使用シ必ス軌條据付部分ヲ傷クヘカラス

第八十六條 軌條ヨリ取外シタル古枕木ハ犬釘ヲ拔取り成ル可ク其ノ當日之ヲ取纏メ再用シ得ルモノト然ラサルモノトヲ區別シテ一定ノ場所ニ積分ケ標札ヲ附シテ其ノ員數ヲ表示シ置クヘシ

第八十七條 橋梁及下水渠上ノ枕木ニハ繫材ヲ取付クヘシ但シ護輪軌條敷設箇所ニ於テハ之ヲ省略スルコトヲ得

トヲ得

繫材ハ木材、アングル鋼、平鋼等ヲ使用シ附屬圖表第四號ニ依リテ之ヲ取付クヘシ

第八十八條 五塞ノ際線路凍上シテ軌條面ニ不整ヲ生シタル場合ニハ軌條ト枕木トノ間ニ一時挾木ヲ插入シテ軌條面ノ整齊ヲ爲シ融下スルニ從ヒ挾木ヲ撤去シテ原狀ニ復セシムヘシ

第八十九條 挾木ノ種類及標準寸法ハ左ノ通トス

種類	寸法		法(耗)
	厚	幅	
縱挾木	一五以下	軌條底幅	一八〇
橫挾木(小)	一五乃至五〇	一八〇	二三〇乃至三〇〇
同上(大)	五〇乃至八五	一八〇	三八〇乃至四五〇

第九十條 縱挾木ハ二枚以上、橫挾木ハ三枚以上重ネテ使用スヘカラス但シ縱挾木一枚、橫挾木二枚迄ハ之ヲ併用スルコトヲ得

挾木ノ組合セ其ノ他ニ關シテハ附屬圖表第七號ヲ參照スヘシ

挾木挿入箇所ハ努メテ點檢ヲ行ヒ必要ニ應ジテ之カ修理又ハ挿換ヲ爲スヘシ

第九十一條 挾木ヲ挿入スルニ當リテハ軌條面ヲ列車ニ動搖ヲ與ヘサル程度ニ整齊スヘシ  
前項ノ場合軌條面ノ不陸ハ普通其ノ二百倍以上ノ距離ニ於テ之ヲ緩和スルコトヲ要ス

第九十二條 挾木ハ成ル可ク堅質、強靱ナル良材ヲ使用シ兩面ヲ平ニ仕上ケ且厚サヲ成ル可ク一樣ナラシ

第七章 道 床

第九十三條 道床ハ努メテ土工定規圖ニ示ス形狀ニ依リテ之ヲ保持スヘシ

第九十四條 道床バラストハ別ニ定ムル仕様ニ依ルモノヲ使用スヘシ

第九十五條 甲線及乙線中ノ本線路ニハ道床バラスト一等品ヲ使用シ丙線中ノ本線路ニハ二等品ヲ使用スヘシ但シ丙線中ノ本線路ト雖モ凍上防止其ノ他ノ爲必要アル場合ニハ一等品ヲ使用スルコトヲ得

第九十六條 側線ニハ道床バラスト二等品ヲ使用スヘシ但シ重要ナラサル側線ニハ三等品ヲ使用スルコトヲ得

第九十七條 新線ニ於テ軌道ヲ敷設スル場合ニハ枕木下道床ノ約二分ノ一高以下ニハ道床バラスト三等品ヲ使用スルコトヲ得

第九十八條 道床ハ左ノ程度以上ニ枕木ヲ露出セシメサル様之ヲ補充スヘシ

一本線路

甲 線 三十耗

乙 線 四十耗

丙 線 五十耗

二 重要ナル側線ハ丙線ニ準ス

第九十九條 道床ノ搗固ハ軌條中心ヨリ左右各四百耗ノ範圍ヲ入念ニ施行シ特ニ軌條下ヲ完全ナラシムヘシ

シ

第一百條 道床ノ補充及搗固ハ局部ニ偏セス區間全般ニ亘リテ強度ヲ均等ナラシムル様之ヲ施行スヘシ

第一百一條 本線路ノ軌道ヲ扛上又ハ低下スル場合ニハ左右共平等ニ之ヲ爲シ一回ニ高サ五十耗ヲ超ユヘカ

ラス且其ノ取付部分ハ軌條面高ニ急變ヲ起ササル様注意スヘシ

軌道ノ扛上又ハ低下ヲ連續ニ施行スル場合ニハ成ル可ク炎暑ノ日ヲ避クヘシ

第一百二條 本線路ノ道床ヲ搔出ス場合ニハ炎暑ノ日ヲ避ケ一時ニ連續六十米ヲ超ユヘカラス但シ炎暑ノ日

ト雖モ特ニ周到ナル注意ヲ拂ヒ危險ノ虞ナシト認ムル場合ニハ連續三十米迄之ヲ搔出スコトヲ得

第一百三條 排水不良若ハ噴泥ノ箇所又ハ凍上ノ虞アル區間ノ道床ハ特ニ篩分ヲ怠ルヘカラス

篩分ヨリ生シタル土砂ハ成ル可ク嵩置其ノ他ニ利用スヘシ

第一百四條 隧道、橋臺背後、踏切道、分岐部及軌條接目附近等ニ於ケル道床ハ良質ナルバラストヲ使用シ

且排水ヲ完全ニシ十分搗固ムヘシ

第一百五條 道床ハ之ヲ散亂セシメス常ニ整理シ仕上叩キヲ勵行スヘシ

第八章 路 盤

第一百六條 路盤ノ形狀ハ努メテ土工定規ニ依リテ之ヲ保持スヘシ

第一百七條 築堤ニ於テ頂面低下シ道床ノ保持困難トナリタルトキハ嵩置ヲ施シ必要ニ應シテ腹付ヲ爲スヘシ

第一百八條 切取法面又ハ山腹ヨリ土砂、岩石等線路ニ崩落ノ虞アル箇所ハ監視ヲ嚴ニシ必要ニ應シテ防護

設備ヲ施スヘシ

第一百九條 路盤排水不良又ハ線路凍上スル箇所ニ於テハ路盤又ハ道床改良ノ方法ヲ講スヘシ

第一百十條 橋臺背後又ハ重要ナル分歧部等ニ於ケル路盤強固ナラサル箇所ハ栗石ノ類ヲ填充シテ十分搗固ムヘシ

第一百十一條 軌道及路盤ニ生スル雜草ハ常ニ之ヲ取除キ排水ヲ良好ナラシメ築堤及切取ノ斜面保護ニ適スル草木ハ努メテ其ノ繁茂ヲ圖リ枯死剝落セルモノハ之ヲ補修シ又ハ播種スヘシ  
築堤及切取斜面ニ生スル雜草木ハ必要ニ應シテ刈取り焼却ニ努ムヘシ

第一百十二條 側溝其ノ他ノ排水溝及伏樋ノ類ハ時々浚深、修理ヲ加ヘ疏水ヲ完全ナラシムヘシ  
伏樋類ノ入口前方ニハ塵芥除ヲ施シ必要ニ應シテ土砂溜樹等ヲ設クヘシ

第九章 建造物

第一百十三條 橋梁ノ監視、點檢ニ際シテハ特ニ左ノ各號ニ注意シ之カ保全ヲ期スヘシ

- 一、橋桁各部ノ接手、取付ピン及ピン孔附近ノ異狀
  - 二、鈺ノ弛緩及腐蝕
  - 三、床鈹、沓、ローラー等ノ變位
  - 四、床石ノ移動竝ニ基礎ボルトノ屈折及折損
  - 五、橋桁ノ燒度及應力竝ニ橋臺、橋脚ノ沈下及振動ノ狀態
  - 六、橋臺橋脚及翼壁ノ基礎竝ニ護岸及根固工ノ狀態
- 監視、點檢ノ結果ハ之ヲ記錄シ保守ノ資料ト爲スヘシ

第一百十四條 木造ノ橋梁、棧橋等ニ付テハボルト其ノ他ノ弛緩ニ注意シ又適當ナル方法ヲ以テ腐朽程度ヲ鑑識シ且重要ナル各部材ニハ其ノ修理及更換年月ヲ記入シタル標札ヲ附シテ耐久程度ヲ知ルニ便ナラ

シムヘシ

第一百十五條 重要ナル河川ニ付テハ出水ノ都度量水標ニ依リ其ノ水位ヲ觀測シ之ヲ記錄シ置クヘシ

第一百十六條 橋臺及橋脚ノ上面竝ニ橋桁ノ各部ハ時々之ヲ掃除スヘシ

第一百十七條 橋桁ノ塗裝剝落シ防錆不十分ト認ムルニ至リタルトキハ錆落シヲ完全ニシヘンキ塗換ヲ爲スヘシ  
潮風、煤煙、滯水等ニ因ル塗裝ノ損傷ヲ發見シタル場合ニハ之カ擴大セサル内ニ速ニ其ノ部分ヲ修復スヘシ

第一百十八條 橋桁ノ枕木ニ接觸スル部分ニヘンキ塗換ノ必要ヲ生シタル場合ニハ枕木ヲ移動シタル上之ヲ施行シ乾燥ヲ俟テ枕木ヲ原位置ニ復スヘシ

第一百十九條 橋桁ノヘンキ塗換ヲ爲シタルトキハ其ノ都度橋桁ノ見易キ箇所ニ塗換年月、橋梁名、徑間等ヲ記載シ置クヘシ

第一百二十條 橋梁上ニハ必要ニ應シテ歩板ヲ設クヘシ

二線以上竝列スル橋梁ニ於テハ兩軌道間ニ歩板ヲ設クルコトヲ得

地形上強風ノトキ歩行著シク困難ナル橋梁上ニハ手摺ヲ設クルコトヲ得

第一百二十一條 列車ヲ避クルニ困難ナル橋梁上ニハ五十米毎ニ待避所ヲ設クヘシ

前項ノ距離ハ地形其ノ他見透ノ關係ヲ考慮シテ適宜之ヲ加減スルコトヲ得

第一百二十二條 長大ナル橋梁ニハ消火用トシテ必要ニ應シテ適當ナル位置ニ水槽又ハ水栓ヲ配置スヘシ

第一百二十三條 橋梁上ニ於ケルカントハ構桁以外ノ橋梁ニ於テハ其ノ二分ノ一ヲ限度トシ桁座面ニ於テ之

ヲ附スルコトヲ得

槽狀桁架設橋梁ニ在リテハカントノ全部ヲ桁座面ニ於テ附スルコトヲ得

第二百二十四條 隧道ニ異常ヲ認メタル場合ニハ詳細ニ原因ヲ調査シ其ノ程度ニ應シテ適當ナル防護工ヲ施スヘシ

附近一帯地ニ多キ地方ノ隧道又ハ平素湧水多量ナル隧道ハ常ニ之カ検査ヲ怠ルヘカラス

第二百二十五條 隧道内天井ノ漏水甚シキ箇所ニ於テハ適當ナル方法ニ依リテ之ヲ側壁面ニ誘導シテ下水ニ落シ且目地著シク剝脱シ又ハ天井巻直ヲ要スト認メタル場合ニハ被害甚シカラサル内ニ之ヲ修理スヘシ

第二百二十六條 隧道上及隧道内ノ排水設備ハ平素之ヲ完全ナラシメ疏水上障礙ナカラシムヘシ

第二百二十七條 電線其ノ他施設物ノ引込多キ隧道、雪覆等ニ在リテハ少クトモ年一回定期的ニ建築限界ニ對スル支障ノ有無ヲ検査スヘシ

第二百二十八條 隧道内ニ於テハ適當ナル方法ニ依リテ側壁等ニ測點ヲ設ケ置キ時々軌道ノ通り及高低ヲ照合シ之カ修理ニ便ナラシムヘシ

第二百二十九條 長大ナル隧道其ノ他特ニ必要アリト認ムル隧道内ニハ已ムコトヲ得サル場合ヲ除クノ外作業又ハ巡回ニ便ナラシムル爲電燈ノ設備ヲ施スヘシ

第二百三十條 電燈ノ設備ナキ隧道ニ在リテハ點檢又ハ巡回ニ際シテ其ノ長短ヲ問ハス必ス照明器ヲ携帯スヘシ

第二百三十一條 隧道内ニハ別ニ定ムル隧道待避所標準ニ依リテ待避所ヲ設クヘシ

第二百三十二條 隧道及雪覆内ノ垂氷ハ構造物ヲ毀損セサル様之ヲ除去シ軌條上ニ累塊凍結シテ車輪滑脱ノ

虞アルモノハ之ヲ碎粉除去スヘシ

第二百三十三條 木造ノ雪覆、散火圍等ニハ消火用トシテ適當ナル場所ニ水槽、消火器、窩口、梯子其ノ他ノ必要ト認ムルモノヲ備付クヘシ

第二百三十四條 踏切道ニハ軌間内ニ護輪器ヲ設ケ該器間及軌間外適當ナル幅員迄軌條面ト同高ニ敷板、敷石、混凝土等ヲ敷詰ムヘシ

但シ軌間外軌條接觸部分幅百五十耗内外ハ板張等ヲ施シ軌道ノ修理ニ便ナラシムヘシ

交通稀ナル踏切道ニ在リテハ半徑四百米未満ノ曲線部ヲ除クノ外ハ單ニ敷板ヲ設クルニ止メ又車馬ノ通行セサル踏切道ニハ前項ノ施設ヲ省略スルコトヲ得

護輪器ハ軌條又ハアングル鋼ヲ使用シ本線軌條トノ間隔其ノ他ニ付テハ附屬圖表第八號ニ依ルヘシ前項敷板ノミヲ設クル踏切道ニ於ケル敷板ト本線軌條トノ間隔モ之ニ準ス

第二百三十五條 軌道ノ修理困難ナル踏切道ニ在リテハ路盤改良ノ方法ヲ講スヘシ

第二百三十六條 電氣機關車運轉區間ニ於テ踏切道前後ニ軌條絶緣裝置アル場合ニハ踏切道鋪裝緣端ヨリ絶緣裝置迄成ル可ク一米九以上ノ間隔ヲ存セシメ該間隔一米九ニ滿タサル場合ニハ左ノ各號ニ依ルヘシ  
但シ電氣機關車運轉區間ニ於ケル踏切道前後軌條絶緣裝置ノ間隔ハ之ヲ七米五トス

一、踏切道鋪裝緣端ヨリ軌條絶緣裝置迄ノ間隔一米九未満一米〇五以上ノ場合ニハ絶緣裝置ノ外方二米迄ノ間ヲ碎石道床ト爲スコト

二、踏切道鋪裝緣端ヨリ軌條絶緣裝置迄ノ間隔一米〇五未満又ハ踏切道幅員七米五以上ノ場合ニハ絶緣物ヲ以テ踏切道ノ鋪裝ヲ爲スコト

第十章 除雪及防雪

第三百三十七條 降雪量及積雪量ヲ測定スル必要アル區間ニハ適當ナル箇所ニ量雪標ヲ設ケ降雪季中其ノ測定ヲ爲スヘシ

第三百三十八條 線路上ノ積雪ハ軌道中心ヨリ少クトモ左右一米九以上ニ排除シ成ル可ク軌條面ヲ露出セシメ且適當ナル距離ニ待避所ヲ切開クヘシ

第三百三十九條 雪掻車ヲ使用スル場合ハ降雪ノ狀況及地形ニ最モ適當スルモノヲ撰ヒ且其ノ排除力ヲ有効ナラシムル爲必要ニ應シテ密明ケヲ爲シ置クヘシ

第四百十條 排雪車ニハ電話機照明器シヨベル信號旗信號燈其ノ他必要ナル器具及物品ヲ積込ミ途中萬一ノ用ニ備フヘシ

第四百十一條 排雪列車運轉區間ニ於テハ運轉期間中踏切道ニ於ケル敷板及護輪器竝ニ橋梁上ニ於ケル歩板ハ必要ニ應シテ一時之ヲ撤去スヘシ但シ交通頻繁ナル踏切道ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第四百十二條 雪掻車ノウイング、フランジャー及アイスカッターハ左ノ箇所ニ於テハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

一、ウイング使用禁止箇所

イ、隧道、雪覆、雪崩覆、散火圍、下路橋梁其ノ他支障箇所

ロ、搔寄雪掻車ニ在リテハ前記ノ外後續回轉雪掻車ノ排雪作業ニ適セサル箇所

二、フランジャー及アイスカッター使用禁止箇所

分岐器、鋪裝又ハ敷板ヲ施セル踏切道、脱線防止軌條、橋上護輪軌條又ハ磨耗防止軌條敷設箇所、歩

板ノ支障スル橋梁、槽狀桁架設橋梁其ノ也支障箇所

第四百十三條 雪掻車、ウイング、フランジャー及アイスカッターヲ使用シ得サル區間ニハ降雪季中警標ヲ建植スヘシ

第四百十四條 排雪列車運轉上必要ト認ムル區間ニハ適當ナル箇所ニ給炭水設備ヲ假設シ炭水ノ補給ニ便ナラシムヘシ

第四百十五條 吹溜又ハ雪崩ノ爲線路埋没スル虞アル箇所ニハ適當ナル防雪工ヲ設置シ必要ニ應シテ警報裝置ヲ施設スヘシ

第四百十六條 防雪工ハ實地ニ付地形、風向、線路ヨリノ距離、構造等ヲ十分考慮シテ之ヲ設置スヘシ

第四百十七條 防雪工ニ付テハ必要ニ應シテ風向、雪量、其ノ効果等ヲ調査記録シ置キ防雪設備改良ノ資料ト爲スヘシ

第四百十八條 吹溜又ハ雪崩ノ虞アル箇所ニ於テ地形上防雪林ノ設置ヲ得策トスル場合ニハ適當ナル樹種ヲ撰ヒテ造林スヘシ

第四百十九條 防雪林ニハ必要ニ應シテ左ノ方法ヲ講シ幼林ノ保育及成林ノ撫育ニ努ムヘシ

一、下刈、補植、除伐、枝打、間伐等

二、害虫、鳥獸、病菌等ニ對スル豫防及驅除

三、風害又ハ雪害木等ニ對スル手入

第五百十條 防雪林ニハ必要ニ應シテ防火、排水等ノ設備及手入ヲ施スヘシ

第五百十一條 雪崩防止林ノ設置ニ當リテハ其ノ幼樹ニ雪崩ノ被害ナキ様適當ナル保護設備ヲ施スヘシ



第二百五十二條 吹雪防止林ノ幅員標準ハ最小三十六米トス

第二百五十三條 防雪林ハ適當ナル時期ニ於テ之ヲ更新スヘシ

第十一章 雜 則

第二百五十四條 信號機、聯動裝置、分岐標識等ノ保安裝置ノ施設及保守ニ關シテハ別ニ定ムル所ニ依ルヘシ

第二百五十五條 信號機、聯動裝置等ノ保安裝置ニ接近シテ作業ヲ爲ス場合ニハ其ノ機能ニ支障ヲ及ボサル様注意スヘシ

第二百五十六條 線路又ハ建造物ニ變狀ヲ生シタル場合ニハ其ノ箇所ヲ表示シ記録ヲ作り時々點檢ヲ行ヒテ變狀ノ推移ヲ觀察シ危險ノ虞アリト認ムル場合ニハ直ニ之ヲ修理スヘシ

第二百五十七條 線路内ニ障碍物ノ入ル虞アル箇所ニハ適當ナル防護工ヲ施スヘシ

線路ニ近接セル建造物ニシテ建築限界ニ牴觸スル虞アルモノハ時々之ヲ檢測スヘシ

第二百五十八條 飛砂ノ爲線路ニ支障ヲ與フル箇所ニハ適當ナル防砂設備ヲ施スヘシ

第二百五十九條 列車ノ途中脱線ニ因リ建造物又ハ車輛ニ甚大ナル損害ヲ與フル虞アル箇所ニハ成ル可ク適當ナル複線裝置ヲ施スヘシ

第六十條 車止及車輪止ノ腐朽破損シタルモノハ直ニ之ヲ修理又ハ更換スヘシ

第六十一條 第一種車止ニ使用スル砂利ハ常ニ努メテ所定ノ状態ヲ保タシメ必要ニ應シテ補充及手入ヲ爲スヘシ

前項ノ砂利ハ凍結ノ虞アル地方ニ於テハ特ニ排水ヲ良好ナラシムヘシ

第六十二條 車止ヲ假設スル場合ニハ一時附近ノ砂利ヲ集積シ第一種車止ニ倣ヒテ長サ二米乃至五米ノ

砂利盛工ト爲スヘシ但シ重要ナラサル側線ニ在リテハ其ノ他ノ方法ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第六十三條 線路諸標類ハ常ニ見エ易キ様之ヲ保修スヘシ

用地界標ニ付テハ特ニ損傷又ハ亡失ノ虞ナキ様注意ヲ要ス

第六十四條 道路其ノ他ニ於ケル柵垣ハ生垣ト爲スカ又ハ成ル可ク古枕木ノ燒焦シタルモノヲ使用スヘシ

第六十五條 電氣運轉區間ニ於テ軌道面ノ扛上及低下又ハ軌道中心ノ移動ヲ爲ストキハ架空電車線其ノ他ノ關係ヲ考慮シテ支障ナカラシムヘシ

第六十六條 電氣關係ノ施設物アル箇所ニ於テ作業ヲ爲ストキハ軌線ボンド、軌條絶縁裝置等ニ支障ナカラシメ且電路ノ短絡ヲ生セシメサル様注意スヘシ

第六十七條 尺度、トラツクゲージ、トラツクレベル等ハ時々其ノ正否ヲ檢シ整正シ置クヘシ

附 則

大正十二年五月十二日達第二九七號軌道整備心得ハ本心得施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

本心得施行前工事ニ著手シ又ハ竣功シタル線路及建造物等ニシテ本心得ニ牴觸シ之カ實施困難ナルモノニ在リテハ特ニ支障ナキ限り改築又ハ改造等ヲ爲ス迄ハ本心得ニ依ラサルコトヲ得

# 軌道整備心得附屬圖表

## 目次

第一號 彎曲軌條縱距表……………二二三

第二號 曲線ニ於ケル短軌條混用表……………二二四

第三號 軌條支材配置表……………二二五

第四號 橋上護輪軌條、枕木繫材、バツキング及フックボルト之圖……………二二六

第五號 枕木配置表……………二二七

第六號 橋臺前後枕木配置圖……………二二九

第七號 凍上筒所挾木挿入圖……………二二〇

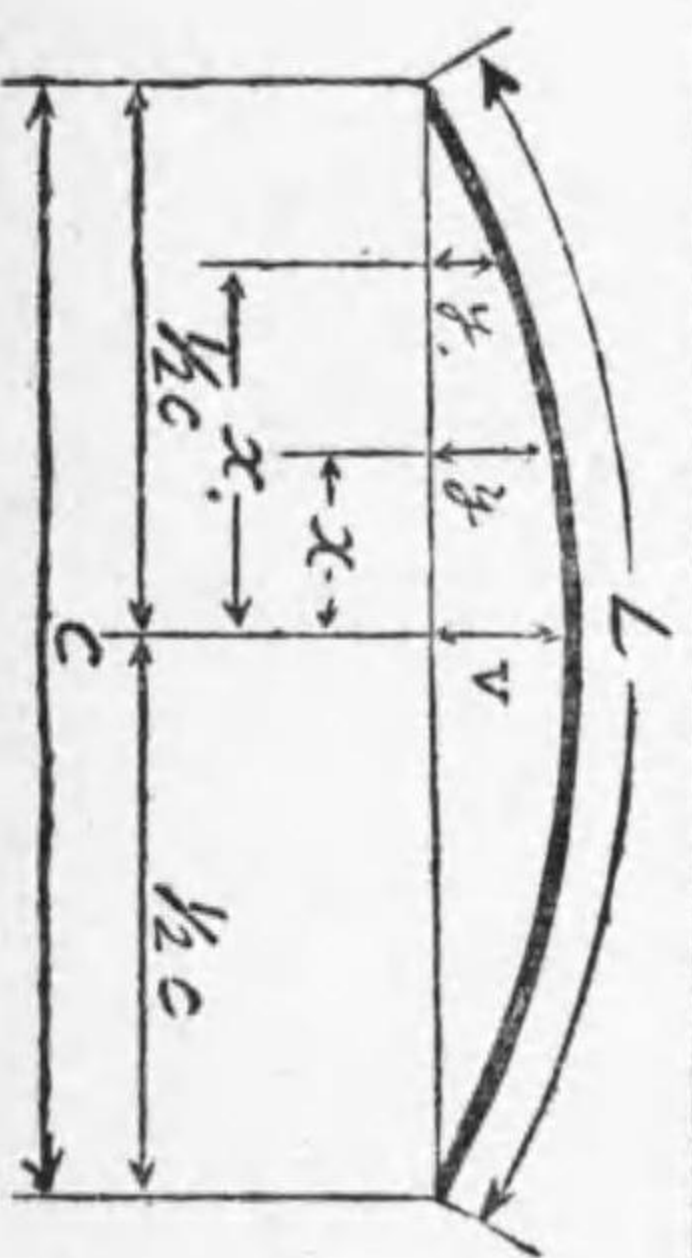
第八號 踏切道護輪器施設圖……………二二一

カント表(別表)……………二二一

### 第一號

### 彎曲軌條縱距表

軌條長(米)	9.144				10.058				11.837				12.000			
	C(米)	V(米)	y(米)	y'(米)	C(米)	V(米)	y(米)	y'(米)	C(米)	V(米)	y(米)	y'(米)	C(米)	V(米)	y(米)	y'(米)
8.0	9.139	131	117	75	10.051	158	140	90	11.876	220	195	120	11.989	225	200	125
1.00	9.141	104	93	59	10.054	126	112	72	11.880	176	156	96	11.993	180	160	100
1.20	9.142	87	78	49	10.055	105	93	60	11.882	147	130	80	11.995	150	133	83
1.40	9.143	75	67	43	10.056	90	80	51	11.883	126	112	69	11.996	128	113	71
1.60	9.143	65	58	37	10.057	79	70	45	11.884	110	98	60	11.997	112	99	62
1.80	9.143	58	55	33	10.057	70	62	40	11.885	98	87	54	11.998	100	89	56
2.00	9.143	52	46	29	10.057	63	56	36	11.885	88	78	48	11.998	90	80	50
2.40	9.144	44	39	25	10.057	53	47	30	11.886	74	66	41	11.999	75	67	42
2.50	9.144	42	38	24	10.058	51	45	29	11.886	71	63	39	11.999	72	64	40
2.60	9.144	40	36	23	10.058	49	43	28	11.886	68	60	37	11.999	69	61	38
2.80	9.144	37	33	21	10.058	45	40	26	11.886	63	56	34	11.999	64	57	35
3.00	9.144	35	31	20	10.058	42	37	24	11.886	59	52	32	11.999	60	53	33
3.20	9.144	33	29	19	10.058	40	35	23	11.886	55	49	30	11.999	56	50	31
3.40	9.144	31	28	18	10.058	37	33	21	11.886	52	46	29	11.999	53	47	29
3.50	9.144	30	27	17	10.058	36	32	20	11.886	50	44	27	11.999	51	45	28
3.60	9.144	29	26	16	10.058	35	31	19	11.886	49	43	26	11.999	50	44	28
4.00	9.144	26	23	15	10.058	32	28	18	11.887	44	39	24	12.000	45	40	25
5.00	9.144	21	19	12	10.058	25	22	14	11.887	35	31	19	12.000	36	32	20
6.00	9.144	17	15	9	10.058	21	19	12	11.887	29	26	16	12.000	30	27	17



$$C = L - \frac{L^3}{24R^2}$$

$$y = \sqrt{R^2 - x^2} - (R - V)$$

$$V = \frac{C^2}{8R}$$

$R =$  曲線半径  
 $L =$  曲線長  
 $C =$  弦長  
 $V =$  中央縱距  
 $y, y' =$  中央ヨリ  $x, x'$  ノ距離ニ於ケル縱距

第二號

曲線ニ於ケル短軌條混用表

軌條種別	半徑(米)		軌條長(米)																							
	外軌	内軌	200	240	250	260	300	340	350	360	400	450	500	550	600	700	800	900	1,000	1,200	1,400	1,600	2,000			
第三種軌條 ○種軌條	外軌	9.144	2	5	13	3	16	7	11	19	4	14	5	11	6	7	8	19	21	25	15	17	21			
	内軌	9.144	1	3	8	2	11	5	8	14	3	11	4	9	5	6	7	8	17	19	23	14	16	20		
第三種軌條 ○種軌條	外軌	9.042	1	2	5	1	5	2	3	5	1	3	1	2	1	1	1	2	2	2	1	1	1			
	内軌	9.144	3	2	9	5	3	5	18	11	21	5	11	6	7	8	9	11	12	15	17	20	25			
第三種軌條 ○種軌條	外軌	9.144	5	3	13	7	4	7	23	14	26	6	13	7	8	9	10	12	13	16	18	21	26			
	内軌	9.017	2	1	4	2	1	2	5	3	5	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			
第一種軌條 ○種軌條	外軌	10.058	7	14	3	22	7	4	21	30	24	16	6	13	7	8	19	11	12	14	33	19	24			
	内軌	10.058	4	9	2	15	5	3	16	23	19	13	5	11	6	7	17	10	11	13	31	13	23			
第一種軌條 ○種軌條	外軌	9.931	3	5	1	7	2	1	5	7	5	3	1	2	1	1	2	1	1	1	2	1	1			
	内軌	11.887	9	8	11	17	10	15	23	4	22	5	11	6	7	8	9	10	11	13	31	18	22			
第一種軌條 ○種軌條	外軌	11.887	5	5	7	11	7	11	17	3	17	4	9	5	6	7	8	9	10	12	29	17	21			
	内軌	11.747	4	3	4	6	3	4	6	1	5	1	2	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1			
第一種軌條 ○種軌條	外軌	12.000	2	12	5	13	3	17	7	18	4	9	5	11	6	7	8	9	10	12	14	16	20			
	内軌	12.000	1	7	3	8	2	12	5	13	3	7	4	9	5	6	7	8	9	11	13	15	1			
第一種軌條 ○種軌條	外軌	11.873	1	5	2	5	1	5	2	5	1	2	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1			
	内軌	11.873	1	5	2	5	1	5	2	5	1	2	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1			

備考 1. 本表ニ於テ短軌條トハ一目切軌條ヲ謂フ

2. 短軌條ハ本表ノ比例ニ依リ混用シ成ル可ク内外軌條ノ自選ビ半目長ヲ越ヘザル様配置スルモノトス

第三號

軌條支材配置表

道床ヲ有スル場合

軌條長(米) 半徑(米)	軌條一本ニ對スル軌條支材配置員數																				
	12	13	14	15	16	17	13	14	15	16	17	18	18	16	17	18	17	18	19	20	21
300以下	5	5	5	6	7	7	5	5	6	7	7	8	7	7	7	7	7	7	8	8	9
400	4	4	4	5	6	6	4	4	5	6	6	7	6	6	6	6	6	6	7	7	8
600	3	3	3	4	5	5	3	3	4	4	5	5	6	5	5	5	5	5	6	6	7

道床ヲ有セサル場合

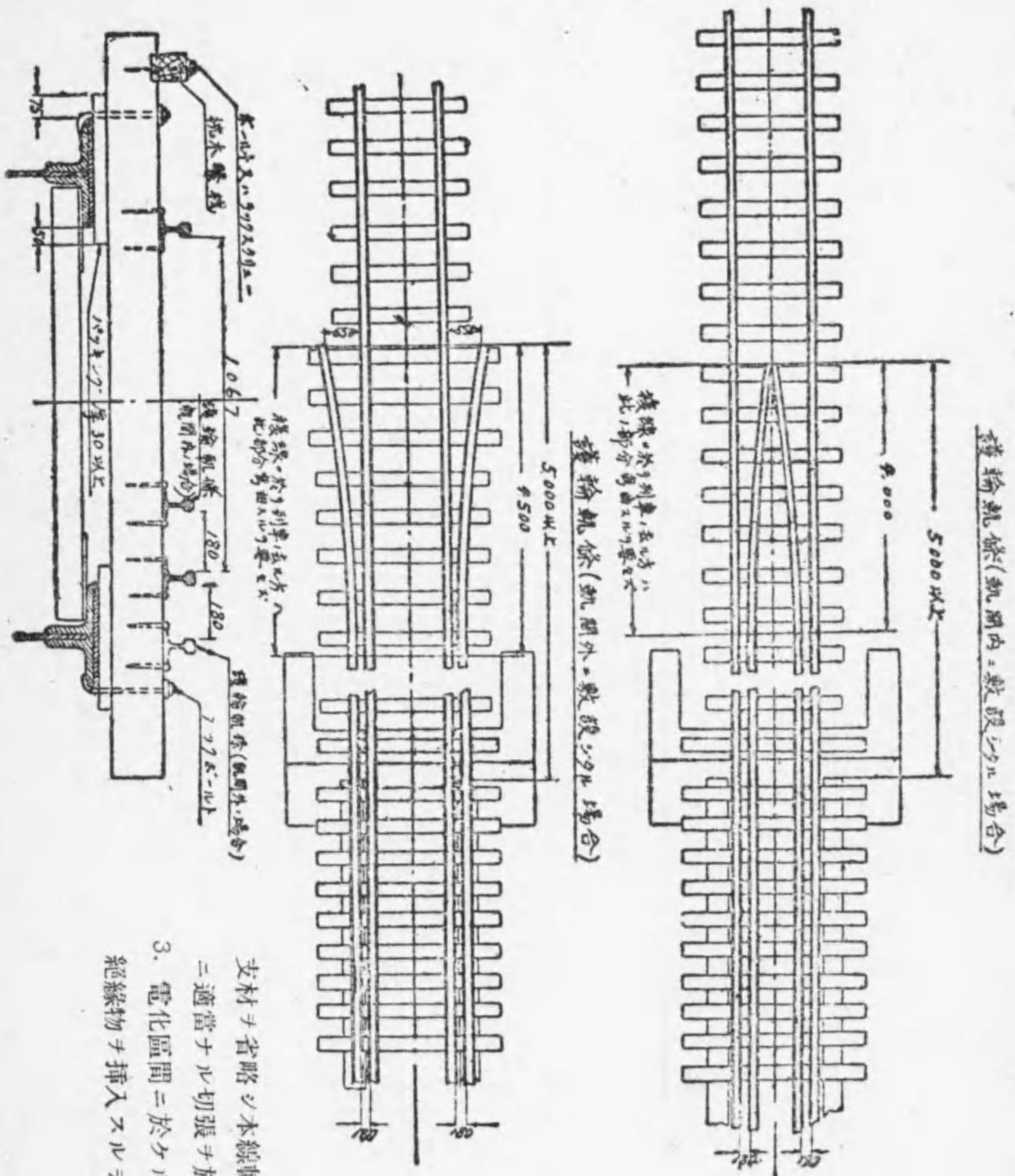
軌條長(米) 半徑(米)	軌條一本ニ對スル軌條支材配置員數																			
	9.144				10.058				11.887及12.000											
300以下	14	15	16以上	16	17	18以上	22	23	24以上	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
400	4	5	6	5	6	7	6	7	8	4	5	6	5	6	7	8	9	10	11	12
600	3	4	4	4	5	6	5	6	7	3	4	5	4	5	6	7	8	9	10	11

備考 1. 軌條支材ハ本表ニ示ス員數ヲ使用シ成ル可ク等間隔ニ配置スルモノトス  
2. 軌條支材ハ之ヲ施設スベキ曲線附帯ノ緩和曲線ニ迄取付カルモノトス

第四號

橋上護輪軌條、枕木繫材、バツキソングレ及ソツクボルト之圖

(單位 耗)

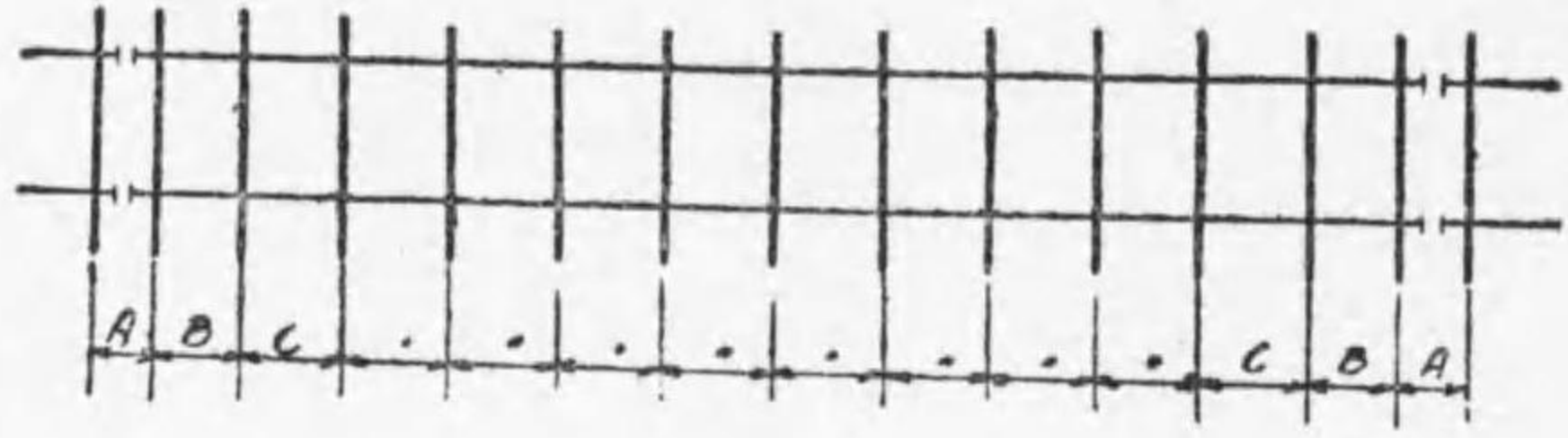


備考

1. 護輪軌條ハ普通軌間内ニ敷設ソ降雪地方其ノ他特ニ必要アル箇所ニソテ取付上支障ナキ場合ニ限リ軌間外ニ敷設スルモノトス
2. 軌條支材ノ取付ヲ要スル由線ニ於テ護輪軌條ヲ軌間外ニ敷設スル場合ハ支材ヲ省略シ本線軌條又護輪軌條間軌條頭部以下ニ適當ナル切張ヲ施スモノトス
3. 電化區間ニ於ケル護輪軌條先端接合部ニハ電氣絶縁物ヲ挿入スルヲ要ス

第五號

枕木配置表



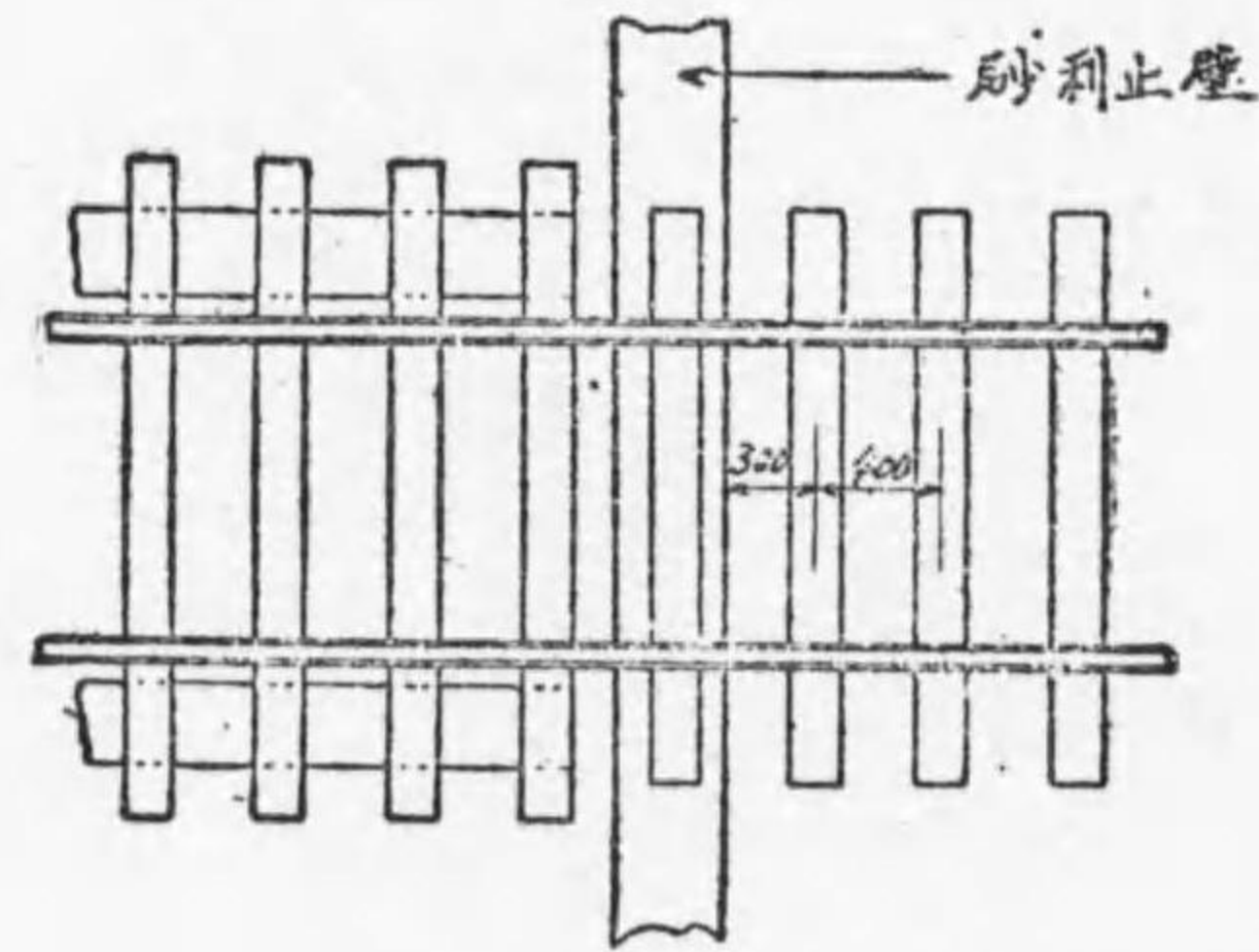
道床ヲ有スル場合

軌條長(米)	枕木配置員數	枕木配置間隔(耗)		
		A	B	C
9.144	12	380	740	810
	13	〃	635	750
	14	〃	590	690
	15	〃	545	640
	16	〃	485	600
10.058	17	〃	465	560
	13	380	692	880
	14	〃	607	770
	15	〃	582	710
	16	〃	552	660
11.887	17	〃	502	620
	13	〃	492	580
	16	380	621. 622	790
	17	〃	576. 577	740
	18	〃	581. 582	690
12.000	19	〃	556. 557	650
	20	〃	571. 572	610
	21	〃	536. 537	580
	16	380	613	800
	17	〃	563	750
12.000	18	〃	563	700
	19	〃	533	660
	20	〃	543	620
	21	〃	503	590

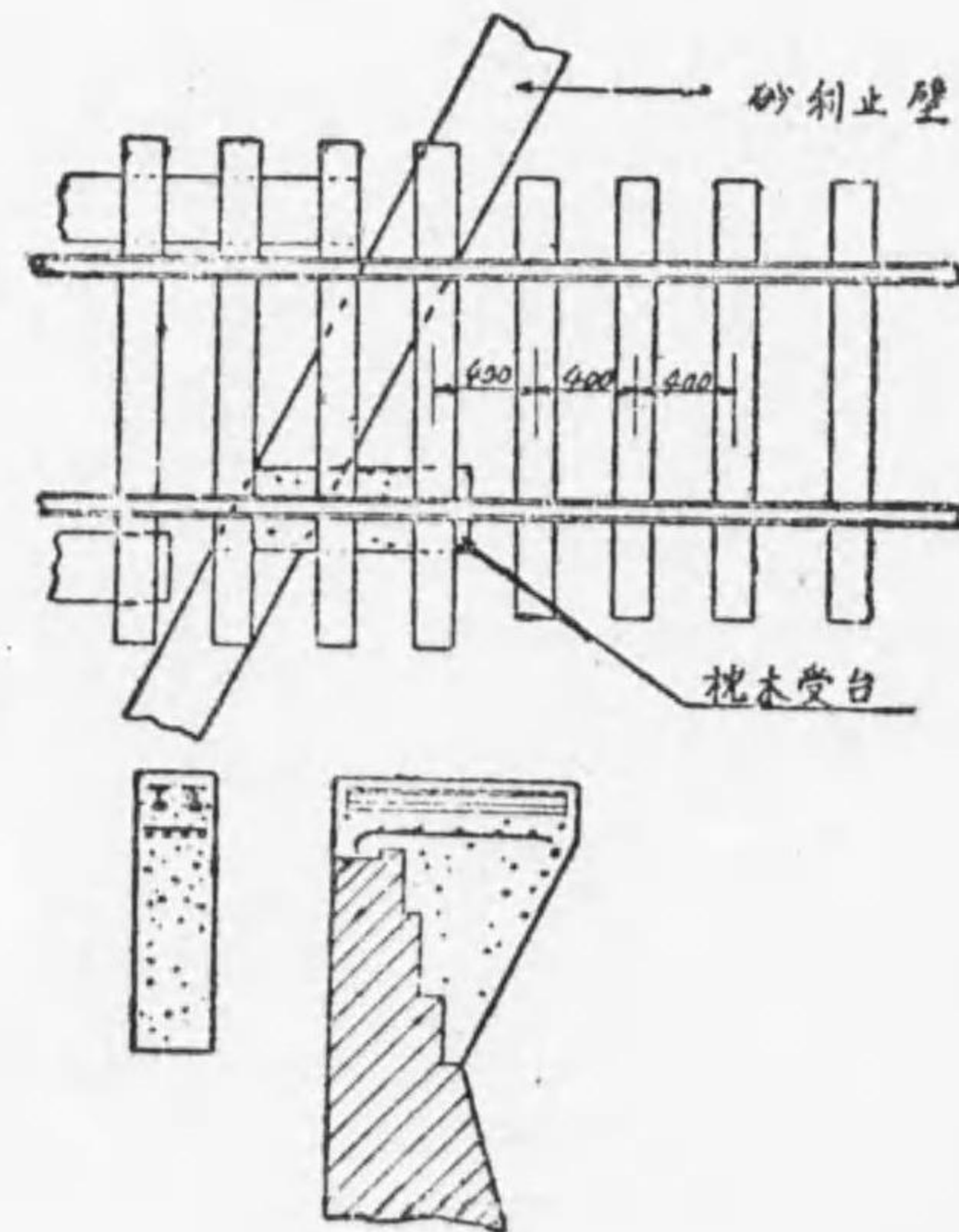
橋臺前後枕木配置圖

(單位耗)

直角ノ場合



斜角ノ場合



備考

- 1、本圖ハ一般標準ヲ示シタルモノニ付特殊ノ場合ハ實地ニツキ適當ニ定ムルモノトス
- 2、砂利止壁背後ノ枕木ハ少クトモ2挺ハ搦固ニ差支ナキ範圍ニ間隔ヲ縮少スルモノトシ其ノ他ノ枕木ハ凡テ所定ノ間隔ヲ超エザル様配置スルモノトス
- 3、斜角ノ場合ハ適當ノ枕木受臺ヲ設ケ枕木ヲ軌道中心線ニ直角ニ施設スルモノトス

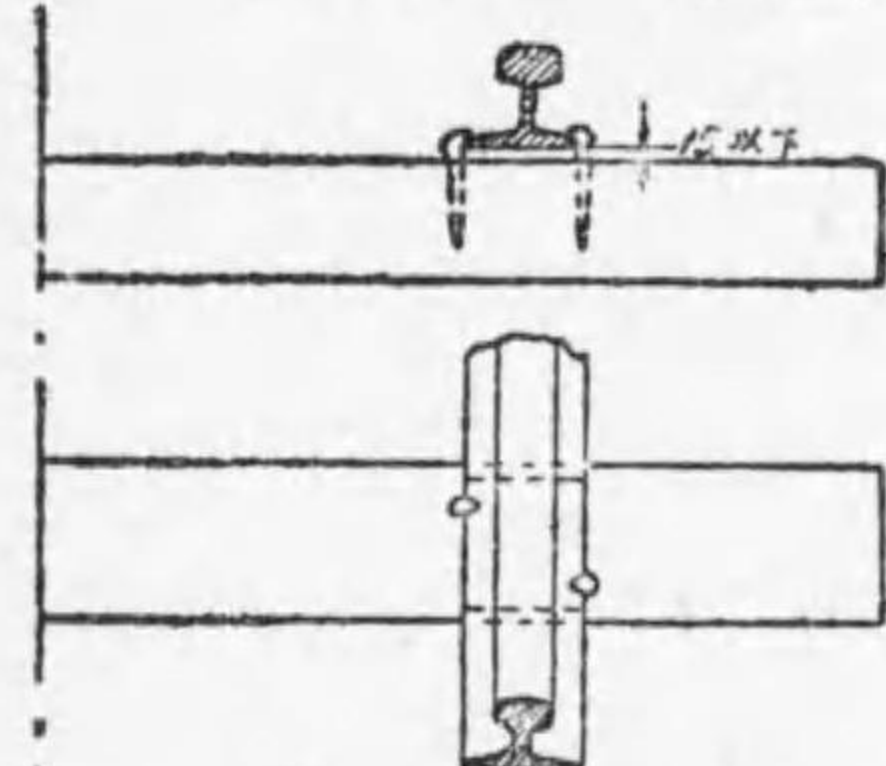
道床ヲ有セザル場合

軌條長(米)	枕木配置員數	枕木配置間隔(耗)		
		A	B	C
9.144	14	300	575	700
	15	〃	525	650
	16	〃	460	610
	17	〃	435	570
	18	〃	450	530
	20	〃	430	470
	21	〃	375	450
	23	〃	375	405
26	〃	331	356	
10.058	16	300	527	670
	17	〃	472	630
	18	〃	457	590
	19	〃	482	550
	20	〃	462	520
	22	〃	417	470
	23	〃	382	450
	25	〃	372	410
28	〃	319. 320	365	
11.887	22	300	381. 382	570
	23	〃	396. 397	540
	24	〃	441. 442	510
	25	〃	406. 407	490
	26	〃	391. 392	470
	28	〃	359	435
	29	〃	336. 337	420
	31	〃	336. 337	390
34	〃	325	353	
12.000	22	300	343	580
	23	〃	353	550
	24	〃	393	520
	25	〃	353	500
	26	〃	333	480
	28	〃	353	440
	29	〃	391	420
	31	〃	322	395
34	〃	335	356	

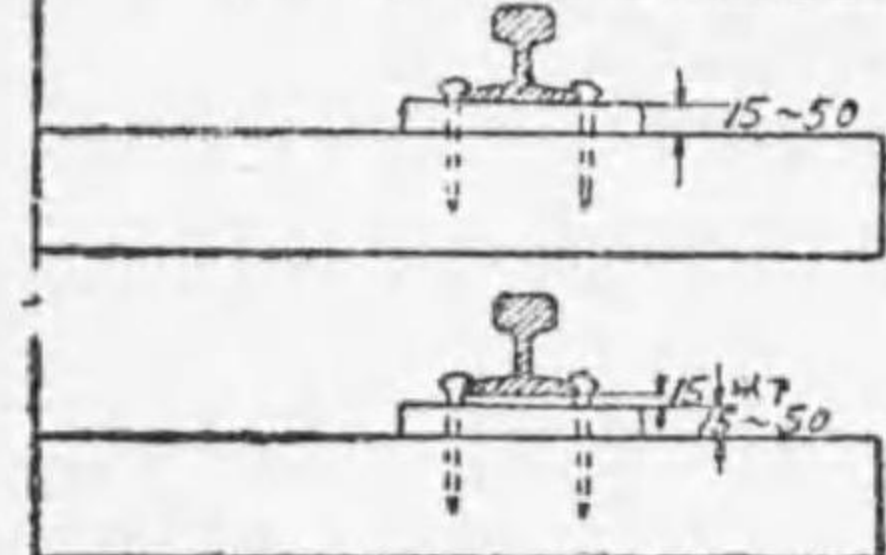
記事

- 一 本表ハ軌條ノ遊間ヲ六耗トシテ計算セリ
- 一 接目相互式ノ場合ニ於ケル枕木ノ配置ハ接目ノ位置ニ應ジテ相對式ノ場合ニ準ジ適當ニ定ムルモノトス

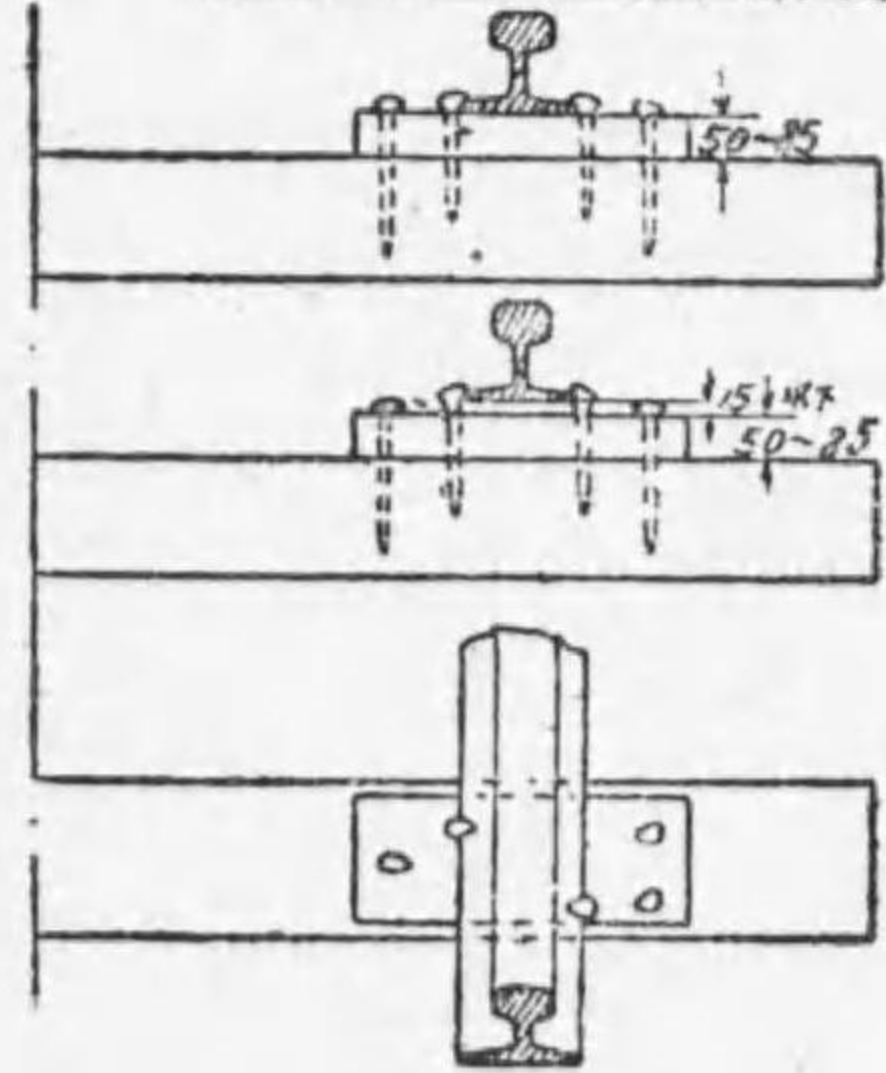
挿入厚十五耗以下の場合



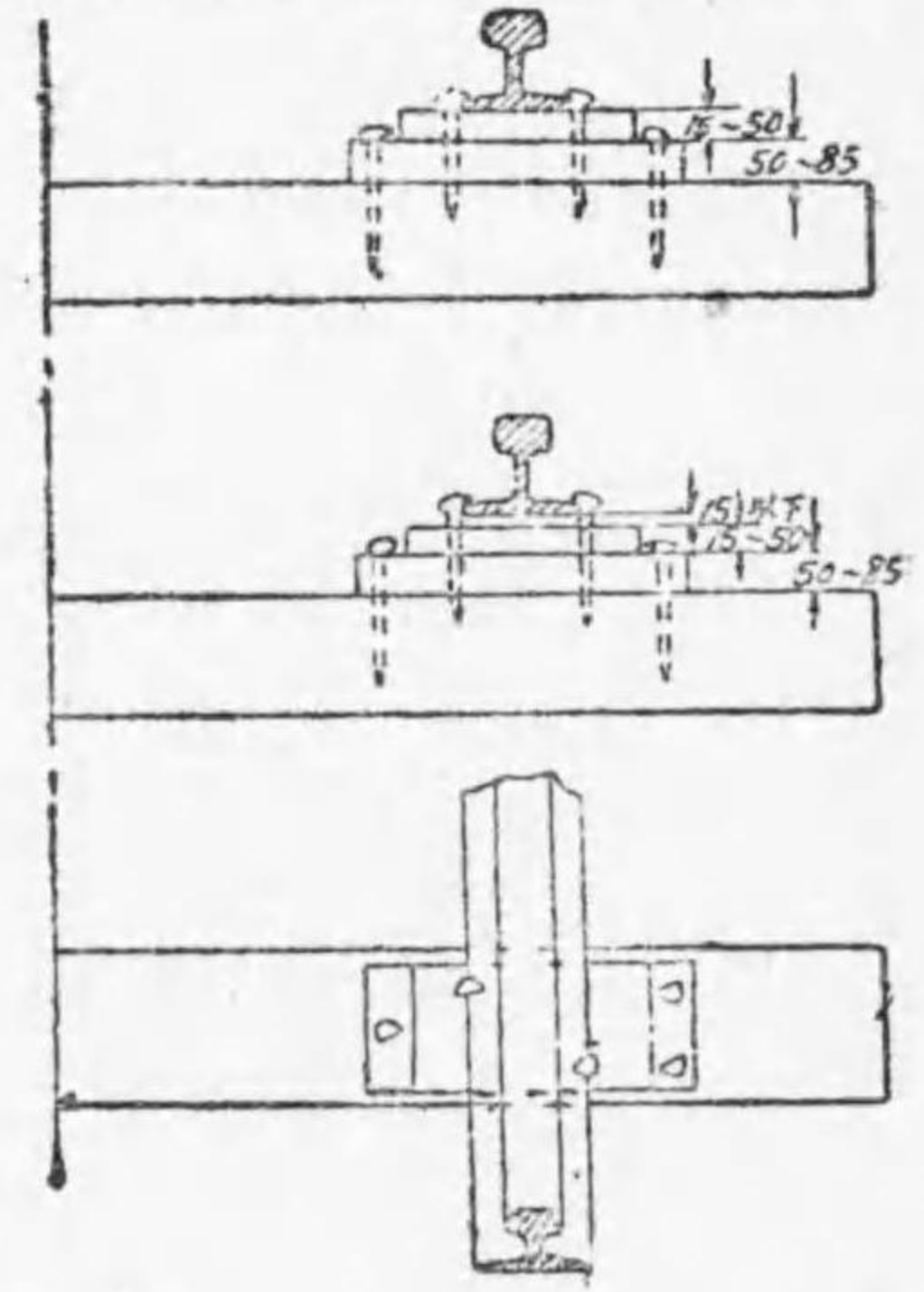
挿入厚十五耗乃至廿六耗の場合



挿入厚廿七耗乃至百耗の場合



挿入厚六十五耗乃至百五十耗の場合



備考

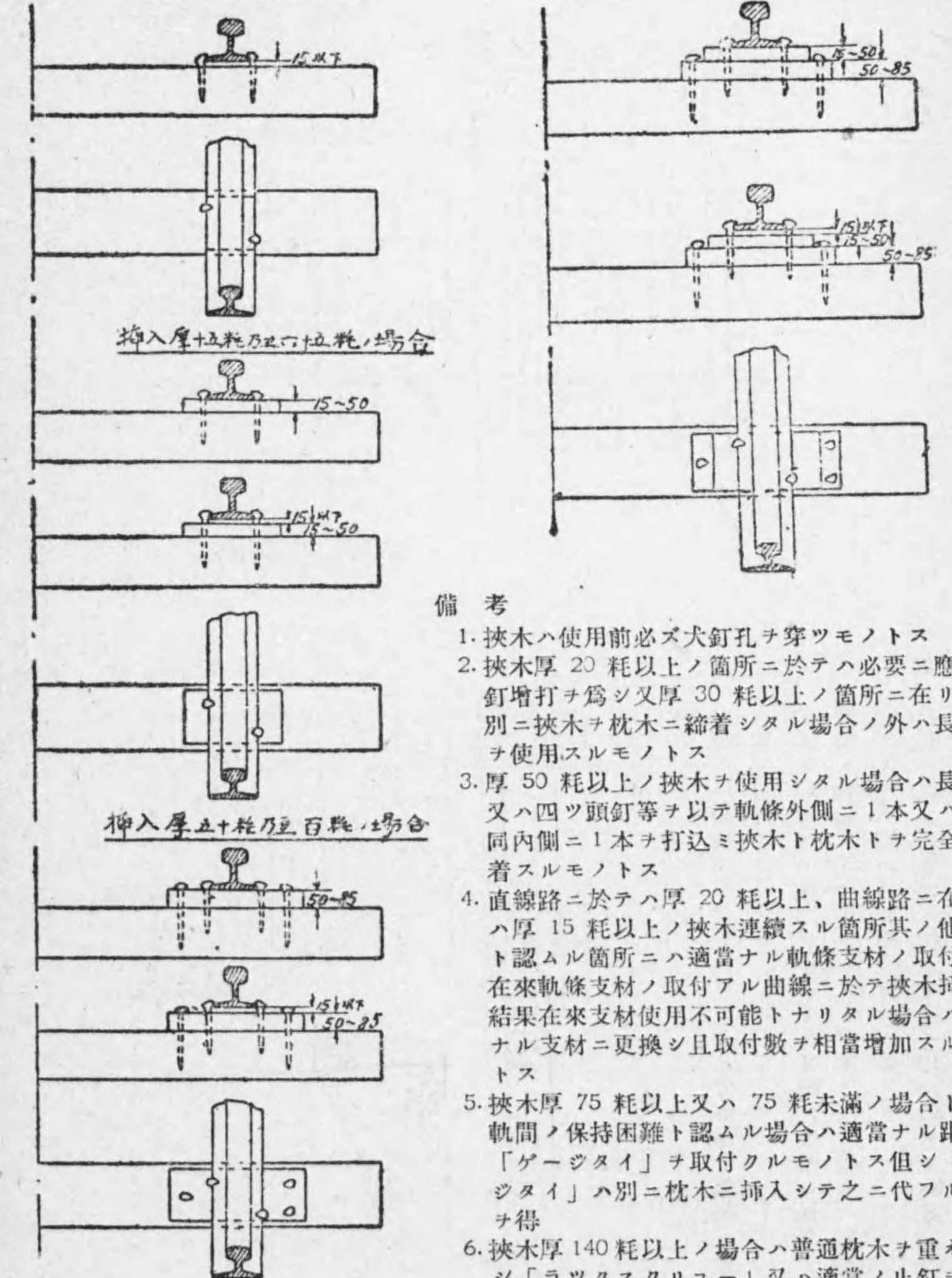
1. 挾木ハ使用前必ず犬釘孔ヲ穿ツモノトス
2. 挾木厚 20 耗以上ノ箇所ニ於テハ必要ニ應ジ犬釘増打ヲ爲シ又厚 30 耗以上ノ箇所ニ在リテハ別ニ挾木ヲ枕木ニ締着シタル場合ノ外ハ長犬釘ヲ使用スルモノトス
3. 厚 50 耗以上ノ挾木ヲ使用シタル場合ハ長犬釘又ハ四ツ頭釘等ヲ以テ軌條外側ニ 1 本又ハ 2 本同内側ニ 1 本ヲ打込ミ挾木ト枕木トヲ完全ニ締着スルモノトス
4. 直線路ニ於テハ厚 20 耗以上、曲線路ニ在リテハ厚 15 耗以上ノ挾木連續スル箇所共ノ他必要ト認ムル箇所ニハ適當ナル軌條支材ノ取付ケ又在來軌條支材ノ取付アル曲線ニ於テ挾木挿入ノ結果在來支材使用不可能トナリタル場合ハ適當ナル支材ニ更換シ且取付數ヲ相當増加スルモノトス
5. 挾木厚 75 耗以上又ハ 75 耗未滿ノ場合ト雖モ軌間ノ保持困難ト認ムル場合ハ適當ナル距離ニ「ゲーヅタイ」ヲ取付クルモノトス但シ「ゲーヅタイ」ハ別ニ枕木ニ挿入シテ之ニ代フルコトヲ得
6. 挾木厚 140 耗以上ノ場合ハ普通枕木ヲ重ネ使用シ「ラツクスクリユー」又ハ適當ノ止釘ヲ以テ下敷枕木ニ十分締着シ必要ニ應ジ枕木繫材ヲ取付クルモノトス

カント表 (單位耗)

Table with columns for diameter (寸) and length (尺) and rows for thickness (10 to 95). It contains numerical data for material consumption and includes a '備考' (Notes) section at the bottom left.

挿入厚十五耗以下の場合

挿入厚六十五耗乃至百五十耗の場合



備考

- 1. 挿木へ使用前必ず大釘孔ヲ穿ツモノトス
2. 挿木厚 20 耗以上ノ箇所ニ於テハ必要ニ應ジ大釘増打ヲ爲シ又厚 30 耗以上ノ箇所ニ在リテハ別ニ挿木ヲ枕木ニ締着シタル場合ノ外ハ長犬釘ヲ使用スルモノトス
3. 厚 50 耗以上ノ挿木ヲ使用シタル場合ハ長犬釘又ハ四ツ釘等ヲ以テ軌條外側ニ一本又ハ二本同内側ニ一本ヲ打込ミ挿木ト枕木トヲ完全ニ締着スルモノトス
4. 直線路ニ於テハ厚 20 耗以上、曲線路ニ在リテハ厚 15 耗以上ノ挿木連続スル箇所其ノ他必要ト認ムル箇所ニハ適當ナル軌條支材ノ取付ケ又在來軌條支材ノ取付アル曲線ニ於テ挿木挿入ノ結果在來支材使用不可能トナリタル場合ハ適當ナル支材ニ更換シ且取付數ヲ相當増加スルモノトス
5. 挿木厚 75 耗以上又ハ 75 耗未滿ノ場合ト雖モ軌間ノ保持困難ト認ムル場合ハ適當ナル距離ニ「ゲージタイ」ヲ取付クルモノトス但シ「ゲージタイ」ハ別ニ枕木ニ挿入シテ之ニ代フルコトヲ得
6. 挿木厚 140 耗以上ノ場合ハ普通枕木ヲ重ネ使用シ「ラツクスクリユー」又ハ適當ノ止釘ヲ以テ下敷枕木ニ十分締着シ必要ニ應ジ枕木繫材ヲ取付クルモノトス

踏切道護輪器設置圖

(單位耗)

曲線ノ場合

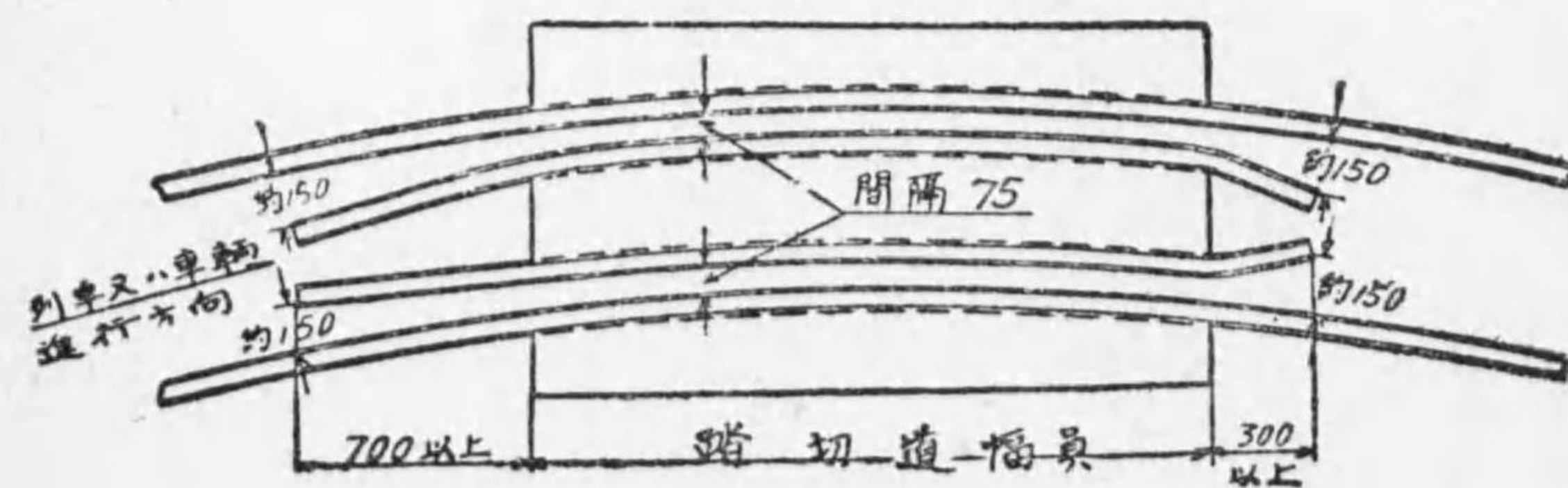


曲線

半徑四百米以上ノ場合



半徑四百米未満ノ場合





# 軌道整備心得實施ニ就テ

(昭和八年七月二十五日)  
局報 注意

二二二

昭和七年達第七九八號軌道整備心得ノ實施ニ關シテハ左記各項ニ注意セララルヘシ  
追テ昭和二年六月三十日局報注意「軌道整備心得實施ニ就テ」ハ之ヲ廢止ス

記

- 一、第六條ニ依ル水準ハ短距離ノ間ニ於テ左右交互ニ狂ヒヲ生シタル場合又ハ曲線ニ於テ外軌カ内軌ヨリ低下シタル場合ノ如キハ許容範圍内ト雖モ速カニ修理スヘキモノトス
- 二、第十條及第十二條ニ依ル軌條一本長トハ九米一四四、一〇米〇五八又ハ一二米ヲ謂フ
- 三、第二十四條ニ依ル軌條ノ小返リハ軌條底面巾ニ於テ五耗ヲ超ユルトキハ之ヲ整正スルモノトス
- 四、第二十七條ニ依ル軌條ノ傾斜敷設ト水平敷設トノ移リ變リハ約五米ノ長ニ於テ取付ケ該部分ハ枕木ノ軌條据付部分ヲ適當ニ切缺キ軌條ヲ枕木ニ密着セシムルモノトス
- 五、第三十五條ニ依ル細密検査ハ第一號様式ニヨリ處理保管シ毎年一回所長宛概況報告スルモノトス
- 六、第五十二條ニ依ル軌條支材ノ配置ハ附屬第一圖ニ據ルモノトス
- 七、第六十一條二號ニ依ル軌條支材ノ取付箇數及位置ハ附屬第二圖ニ據ルモノトス但シ曲線ヨリ分岐スル分岐曲線ハ之ニ準ス
- 八、第六十一條二號ニ依ル軌條支材ニシテ機關車ノ進入セサル手押線竝安全側線ニ對スル分岐曲線ニハ省略スルコトヲ得、複線區間ニ於ケル非常亘線重要ナラサル側線ニ於ケル分岐曲線ニシテ一日ノ使用回数僅少ナルトキハ前項軌條支材ノ取付箇數ヲ減スルコトヲ得

- 九、第七十一條ニ依ル目標ハ曲線ニ於テハ外軌ノ内側直線ニ於テハ右側軌條ノ内側ニ附スルヲ普通トス
- 一〇、第八十四條及第八十六條ニ依ル枕木ノ堆積法ハ附屬第三圖ニ據ルヲ普通トス
- 一一、第一百十三條ニ依ル記錄ハ第二號様式トス
- 一二、第一百五條ニ依ル河川出水位ノ記錄ハ附屬第三號様式トシ保線區ニ於テ調製備付クルモノトス、但シ警戒ヲ要スル洪水位ハ保線事務所長ニ於テ制定シ河川出水警戒水位欄ニ朱書セシムルモノトス、尙河底ノ浸蝕セラル、虞アル橋梁及溝橋ニ在リテハ各橋臺、橋脚ノ基礎底面ヨリ桁下端ニ至ル高サヲ示ス數字(單位米小數一位迄トシ字體ハ算用數字トス)ヲ其ノ直上ノ桁外側面ニ、構桁ニ在リテハ端柱ニ白色「ペイント」ヲ以テ記載シ置クモノトス
- 一三、第一百十九條ニ依ル記載方ハ左ノ通りトス右側起算點寄ノ橋桁腹鉞ニ表示スルヲ普通トス、但シ同一橋梁ニシテ橋桁二連以上ノ場合其ノ一部ノ橋桁ニ對シテ塗換ヲ施行シタルトキハ起點寄橋桁以外ノ各桁ニハ塗換年月日及施工者名ヲ表示スルモノトス

何々橋梁

徑間、何米、何連

昭和何年何月塗換

施工者名

- 一四、第二百二十二條ニ依リ水槽ヲ配置スヘキ橋梁ハ延長六十米以上トシ約五十米毎ニ一箇ノ割合ヲ以テ配置シ其ノ置場ハ待避所又ハ橋臺背後ノ適當ナル箇所トス、但シ延長六十米以下ノ橋梁ニテ必要アルトキハ適當數之ヲ配置スルコトヲ得

二二三

- 一五、第三百三十七條ニ依ル積雪量及降雪量ノ測定日時及回数ハ大正十五年十二月十五日仙達甲第六二一號氣象觀測心得ニ據ルモノトス
- 一六、第四百四十七條ニ依ル記錄方其他ニ關シテハ別ニ定ムル防雪設備臺帳調製並整理方ノ件ニ據ルモノトス
- 一七、簡易線軌道整備心得第三條第四條ニ關シテハ本注意事項ヲ準用ス

### 簡易線軌道整備心得

(昭和八年三月二日 達第一一〇號)

- 第一條 國有鐵道簡易線ニ於ケル軌道ノ敷設及保守並ニ之ニ附帶スル諸建造物ノ構築及維持ニ關シテハ別ニ定ムルモノノ外本心得ニ依ルモノトス  
但シ特殊ノ施設ニ係ル軌道ニシテ本心得ニ依ルコト能ハサル場合ハ此ノ限リニ在ラス
- 第二條 本心得ニ明示ナキ事項ハ軌道整備心得中丙線ニ關スル規定ヲ準用ス
- 第三條 本線路ニ於ケル軌道高底ノ不陸ハ軌條一本長ニ對シ九耗以内ニ於テハ之ヲ整正セサルコトヲ得
- 第四條 本線路ニ於ケル軌道通リノ狂ハ左ノ限度内ニ於テハ之ヲ整正セサルコトヲ得
  - 一、直線ノ場合 軌條一本長ニ對シ 九 耗
  - 二、曲線ノ場合 同 上 十二耗

但シ半徑千六百米ヲ超ユル曲線ハ直線ニ準ス

第五條 本線路ニ於ケル軌條左ノ状態ニ達シタルトキハ適當ナルモノト更換スヘシ

- 一、軌條頭部ノ最大磨耗高カ軌間内側ニ於テ十二耗ニ達シタルモノ(軌條ノ磨耗高ハ磨耗面ニ直角ノ方向ニ測ルモノトス)
- 二、軌條ノ磨耗腐蝕等ニ因ル斷面積ノ減少カ百分ノ二十五ニ達シタルモノ
- 三、其ノ他運轉上危険ノ虞アリト認ムルモノ

〔註〕 本條ハ三十疋軌條ヲ目安トシテ定メタルモノナリ

第六條 本線路ニ於ケル千分ノ二十五ヨリ急ナル勾配線其ノ他匄進著シキ箇所ニハ軌條匄進防止裝置ヲ設置スヘシ

第七條 本線路ニ於ケル半徑百六十米ヨリ小ナル曲線又ハ特ニ必要ト認ムル曲線ニハ脫線防止軌條ヲ敷設スヘシ

第八條 本線路ニ於ケル枕木ノ間隔擴大又ハ軌道中心線ニ對スル直角ノ狂ハ左ノ限度内ニ於テハ之ヲ整正セサルコトヲ得

- 一、間隔ノ擴大(軌間内軌條底位置ニ於テ) 七十耗
- 二、軌道中心線ニ對スル直角ノ狂(同上) 六十耗

第九條 本線路ニ於ケル道床ハ六十耗以上ノ枕木ヲ露出セシメサル様之ヲ補充スヘシ

第十條 第三條、第四條及第八條ノ規定ハ側線ニ、第五條及前條ノ規定ハ重要ナル側線ニ之ヲ準用ス

附 則

本達ノ適用ニ當リ國有鐵道簡易線建設規程附則第一項及同運轉規程附則ヲ適用スル區間ニ在リテハ總テ軌道整備心得中丙線ニ該當スル事項ヲ準用スルモノトス  
(圖面附錄第三號)省略

### 車止 車輪止竝安全側線設備心得

(大正十五年十二月二十三日 達第一一〇三號)

#### 第一章 總 則

第一條 國有鐵道ノ線路ニハ本心得及附屬圖面ニ依リ車止車輪止竝安全側線ヲ施設スルモノトス但シ特種ノ施設ヲ必要トスル場合ハ大臣ノ承認ヲ得テ本心得ニ依ラサルコトヲ得

第二條 車止ハ第一種、第二種及第三種甲、乙ニ分ツ

#### 第二章 車 止

##### 第一節 第一種車止

第三條 第一種車止ハ左ノ箇所ニ設クルモノトス

- 一 安全側線ノ終端
- 二 折返線ノ終端
- 三 特ニ必要ト認ムル箇所

第四條 第一種車止ノ寸法ハ左表ニ依ルモノトス

施設線路ノ状態	第一種車止 (砂利盛上)		記 事
	延 長 (米)	軌條面上ノ同 下	
第一種車止始端ノ外方一杆間ノ平均配力列車又ハ車輛進行ニ對シ千分ノ十ヨリ急ナル下リナルトキ	四〇	二五〇	其ノ他ノ場合ト雖軌條面上盛上可能ナル場合ハ普通ノ場合ニ近キ構造ヲシムルコト
同千分ノ十及千分ノ十ヨリ緩ナルトキ	三〇	二五〇	
同千分ノ十ヨリ急ナル上リナルトキ	二〇	二五〇	

表中其ノ他ノ場合トハ停車場構内ニ於テ隣接線アル爲或ハ構内作業上軌條面上ニ砂利盛上ヲ不便トスル如キ場合ヲ謂フ

第五條 第一種車止中心線ハ之ヲ設クル線路終端ノ方向ニ一致セシムルモノトス

第六條 第一種車止中心線ト隣接線トノ間隔ハ次ノ通トス

- 一 安全側線ヲ分岐スル線路トノ間 二米五以上
- 一 其ノ他ノ線路 三米五以上

##### 第二節 第二種及第三種甲、乙車止

第七條 第二種及第三種甲、乙車止ノ使用別ハ左表ニ依ルモノトス

使用箇所	車止ノ種類	記	事
行止到著本線	第二種	第二種車止施設箇所ハ線路狀態及使用程度ニ依リ第四條ノ砂利盛上トシ其ノ延長ニ米乃至五米トスルコトヲ得	
棧橋線及之ニ類似線	第二種		
主要側線	第三種甲		
車庫線及建物内線	第三種乙		
其他ノ側線	第三種乙		

第八條 第二種及第三種甲、乙車止ハ黑色ニ塗ルモノトス

第三章 車輪止

第九條 車輪止ハ側線ニ於テ左ノ場合車輛接觸限界内ニ米ノ箇所ニ設置スルモノトス

- 一 停止中ノ車輛カ本線ニ逸出スル虞アルトキ
- 二 遷車臺、轉車臺ニ向ヒ車輛カ流轉スル虞アルトキ
- 三 特ニ必要ト認メタルトキ

第十條 車輪止ハ白色ニ塗ルモノトス

第四章 安全側線

第十一條 安全側線ハ左ノ場合ニ施設スルモノトス但シ地形其ノ他ノタメ安全側線ヲ施設スルコト困難ナリト認ムル場合ニ限り脱線轉轍器又ハ脱線器ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得

- 一 二以上ノ列車ヲ同時ニ進入又ハ進出セシムル場合相互其ノ進路ヲ支障スル虞アルトキ

二 本線路又ハ重要ナル側線カ他ノ本線ト平面交叉スルカ若ハ分岐スル場合列車相互間或ハ列車ヲ車輛ニ對シテ防護ノ要アルトキ

三 可動橋ニ於テ列車又ハ車輛ノ防護ヲ要スルトキ

四 特ニ必要ト認ムルトキ

第十二條 安全側線ノ分岐ニハ遷移轉轍器ヲ用フルモノトス但シ列車又ハ車輛ヲ出入セシムル場合ニハ轉轍器及轍又ヲ用フ

第十三條 安全側線ノ方向ハ成ルヘク直線タラシムルヲ要ス

前項ノ直線ヲ施設シ能ハサル場合ニハ遷移轉轍器ノ附帶曲線ハ左ノ半徑ヲ有セシムルヘシ

遷移轉轍器 曲線半徑(米)	附帶曲線ノ 半徑(米)	記	事
二〇〇ヨリ大	一二〇ヨリ大	遷移轉轍器ノ方向カ直線ナラスシテ之ト相反向セル附帶曲線ヲ接続スル場合ニハ遷移轉轍器取付線路ハ成ルヘク直線タルヲ要ス	
二〇〇未満ニシテ 一〇五ヨリ大	二〇〇ヨリ大		

(註) 附帶曲線ニハ定ムル規程ニ依リ擴度ヲ附スルモノトス

第十四條 遷移轉轍器、轉轍器、脱線轉轍器又ハ脱線器ハ之ト關係ヲ有スル信號機ト聯動セシムルモノトス

第五章 雜則

第十五條 車止ノ後方必要ノ箇所ニハ制走堤ヲ設クルコトヲ得但シ制走堤ヲ設クル場合ハ第二種又ハ第三種車止ヲ省略スルコトヲ得

(註) 必要ノ箇所トハ車止ノ後方カ建造物又ハ高築堤深切取ニシテ列車若ハ車輛カ適當ノ位置ニ於テ停車ヲ誤マレハ損害甚大ナル處ア

ル如キ箇所ヲ謂フ

第十六條 車止用砂利ハ徑二〇耗乃至六五ノ硬質ノ礫ニシテ土砂ノ混入セサルモノヲ選ムヘシ

附 則

左記諸達ハ之ヲ廢止ス

大正元年十一月七日達第三〇七號 脫線轉轍器設置方ノ件

大正五年三月六日設甲第四四號 單線内停車場ニ於ケル突込線設備其ノ他ニ關スル件

大正六年四月三十日達第三五八號 車輪止設置ノ件

大正十三年九月二十七日工回第二〇三〇號 突込線ノ代リニ脫線轉轍器又ハ脫線器設置方ノ件

(圖面附錄第三八號省略)

### 線路諸標設備心得

(大正十四年十一月二十五日 達第九三七號)

第一條 線路諸標ハ本心得ニ依リ設備スルモノトス

第二條 距離標ハ附圖第一號ニ依リ甲號ヲ一籽毎ニ、乙號ヲ五〇〇米毎ニ建植ス

距離更正ヲ要スル場合距離標記載方ハ距離更正箇所ニ於ケル圖示ノ例ニ依ル

第三條 勾配標ハ附圖第二號ニ依リ勾配ノ變更點ニ建植ス但シ隧道内、雪覆内其ノ他之ニ依リ難キ場合ハ適宜特種構造ノモノヲ用ヒ又ハ側壁等ニ勾配ヲ記入スルコトヲ得

第四條 曲線標ハ附圖第三號ニ依リ甲號ヲ圓曲線ト緩和曲線又ハ直線トノ接續點ニ建植シ乙號ヲ相連接スル同向ノ圓曲線ノ接續點ニ建植ス

第五條 遞減標ハ附圖第三號及第四號ニ依リ高度遞減ノ終點ニ建植ス

第六條 伏樋標ハ附圖第五號ニ依リ伏樋ノ位置ニ建植ス

第七條 防雪林標ハ附圖第六號ニ依リ防雪林ノ位置ニ建植ス

第八條 防雪林警標ハ附圖第七號ニ依リ防雪林ノ位置ニ建植ス

第九條 停車場標ハ停車場本屋中心ニ最近キ籽程十米ノ箇所ニ建植シスイッチバツク停車場ニ在リテハ特別ノ場合ヲ除キ附圖第十七號ニ依リ建植ス但シ乗降場擁壁面等堅固ナル建造物ヲ利用シ其ノ位置ヲ明示スルトキハ之カ建植ヲ省略スルコトヲ得

第十條 量水標ハ河川其ノ他必要ノ場所ニ設クルモノトシ附圖第八號ニ依リ橋臺、橋脚等ニ記載ス但シ記載ニ適スル工作物ナキ場合ニハ別ニ之ヲ建植ス

第十一條 量雪標ハ附圖第九號ニ依リ必要ノ場所ニ設置ス

第十二條 用地界標ハ枕木二ツ切又ハ長約一米徑約一五〇耗ノ木杭ヲ燒焦シテ建植ス

第十三條 市街用地界標ハ附圖第十號ニ依リ人家稠密ノ地ニ建設ス

第十四條 丁場界標ハ附圖第十一號ニ依リ其ノ境界ニ建設ス

第十五條 車輛接觸限界標ハ附圖第十二號ニ依リ本線路及車輛ノ入換頻繁ナル側線其ノ他必要ト認ムル側線ニ於テ線路中心距離四米ノ箇所ニ設置シ其ノ形狀ハ普通甲號ヲ用キ積雪多量ノ地ニ於テハ乙號ヲ用ウルモノトス但シ中心距離四米未滿ノ箇所ニハ最大中心距離ノ末端ニ設置ス

線ニ於テ線路中心距離四米ノ箇所ニ設置シ其ノ形狀ハ普通甲號ヲ用キ積雪多量ノ地ニ於テハ乙號ヲ用ウルモノトス但シ中心距離四米未滿ノ箇所ニハ最大中心距離ノ末端ニ設置ス

第十六條 停車場區域標ハ附圖第十三號ニ依リ特ニ停車場ノ區域ヲ指定スル必要アル箇所ニ建設ス

第十七條 雪搔車警標ハ必要ニ應シ附圖第十四號ニ依リ雪搔車ノウイング又ハフランジャー等各使用禁止區域外方相當距離ニ建設ス

第十八條 氣笛吹鳴警標ハ附圖第十五號ニ依リ列車ノ近接ヲ知ラシムル爲氣笛吹鳴ヲ要スル踏切道等ヨリ普通四〇〇米以上ノ距離ニ建植ス但シ線路其ノ他ノ狀況ニ依リ四〇〇米以内ノ距離ニ建植スルコトヲ得

第十九條 踏切警標ハ附圖第十六號ニ依リ甲號ハ看手ヲ附セサル踏切道ニ於テ必要ト認ムル箇所ニ限リ建植シ、乙號ハ看手ヲ附シ出務時刻ヲ制限スル踏切道ニ於テ通行人ノ注意ヲ惹クヘキ位置ニ掲出ス

第二十條 距離標、勾配標、曲線標及遞減標ハ線路終點ニ向ヒ左側ニ、伏樋標、丁場界標及雪搔車警標ハ右側ニ設ケ、汽笛吹鳴警標ハ列車進行方向ノ左側ニ設ク

第二十一條 標板、標杭ハ特ニ定メタルモノヲ除キ木造ヲ以テ普通トシ標杭地面上ノ一部及地中ニ埋没スル部分ニハコイルター其ノ他ノ防腐劑ヲ塗布スヘシ

第二十二條 諸標ハ附圖ニ特記シアルモノヲ除キ普通白塗黒書トス

第二十三條 標杭ハ傾倒、拔上リヲ防ク爲必要ニ應シ根架ヲ用フ

附 則

第二十四條 明治四十四年九月達第六五三號哩程標、勾配標、車輛停止區域標、踏切道警標、縮小建築定規警標、曲線標、橋梁標、溝橋標、伏樋標、驛名標、案内標及市街地鐵道用地境界標定規ハ驛名標及案内標定規ヲ除キ其ノ他ヲ廢止ス

(圖面附錄第四號省略)

昭和十四年六月十日印刷  
昭和十四年六月二十日發行

保線作業基準 奥付  
定價金 九十錢也  
(送料共)

編纂者

鐵道省仙臺鐵道局工務部保線課

發行者

關 戶 高 三 郎

印刷者

東 京 市 世 田 谷 區 松 原 町 一 一 七 八 四

印刷所

東 京 市 豐 島 區 西 巢 鴨 二 丁 目 二 七 一 二

不 許  
複 製

合資會社 光 文 社  
東 京 市 豐 島 區 西 巢 鴨 二 丁 目 二 七 一 二

發行所

東 京 市 下 谷 區  
下 谷 町 二 丁 目 二

鐵道技術社

振替 東 京 七 七 七 一 四 番  
電 話 下 谷 一 七 五 九 番

395  
12  
08

終

